



地域の「家守り棟梁」になりたい社長が届ける...

# ジェントル通信

4月号

【発行者】

株式会社ジェントルワーク

〒579-8056 東大阪市若草町7-9

TEL: 072-974-5010

【発行日】

2024年4月1日 Vol.35

こんにちは！笠松です。  
家の中も外も過ごしやすい季節になりました。

今月子供を連れてお花見に出かける計画  
をしています。子供達と僕の目当ては桜では  
なく屋台のジャンクフード(笑)

いつになったら「団子より花」になるのかな...



人生が変わる簡単な方法の一つ。  
それは環境を変化させること。



僕は、もともと大工職人。

職人時代は、一日中誰とも会話しない日  
も多かった。おそらく、しゃべりにくい  
雰囲気纏っている頑固な職人。

大工職人は技術で語る：そう思っていた  
元々口ベタで自分の想いを伝えるのが苦  
手。人の前で話すのはもつと苦手：その  
上、あがり症(笑)

ところが、起業したら職人の「技術」  
より求められるのが会話術だった。

それを克服しようと講師として話すこと  
に挑戦。「住宅に関するセミナー」を始  
めて約4年になります。

残念ながらトーク力は横這いですが、誰  
かに伝えること、相談に対応することで  
自身の建築知識は増えていった。

今は情報に溢れ、逆に正解を見つけるの  
が難しくなり相談も増えました。

講師を始めたことで、普段から意識する  
ようになったことが二つあります。

一、建築の難しい話を分かり易く伝える。  
一、最小限で抑えられる工事の提案。

分かりやすく・正直にお伝えするのは当  
然のことですが、売る側と買う側という  
立場もあり、意思疎通が図れない場合も  
あります。

そんな時、いつも自分に  
「お前はまた、相手のことを理解できていな  
い：独りよがりになってないか？」と問いか  
けます。

まず、相手のことをより多く知り理解す  
ることが必要。そして、相手を想い会話  
することが大事だと最近になって気づき  
ました。

みなさんは周囲にいる人のことをどれぐ  
らい知り、理解されていますか？



## 今月の忘れられない出来事

### インフルエンザが教えてくれたことの巻

先日、9歳の息子がインフルエンザにかかり  
安静にさせていたが...熱が上がり異常行動  
を起こすようになった。

息子の様子がおかしいと気付いたのは、リビ  
ングでTVを観ている時。いきなり音楽に合  
わせブリッジを何回も始め静止しても辞めず、  
しばらくすると収まりましたが、とにかく意  
思疎通もできない状態でした。

一番ビックリしたのは...いきなり階段に走  
り出し駆け下りようとしたこと。その光景を  
見て、もしベランダから飛び降りたら...と  
考えたら恐ろしくなり、子どもの傍から離れ  
られなくなりました。

それ以来、妻は息子が心配で、出来るだけ近  
くで生活し看病してくれていた。

異常行動が始まり3日後...息子が少し落ち着  
いたら今度は妻が体調を崩し、2人は部屋にこ  
もりっきりの生活に。

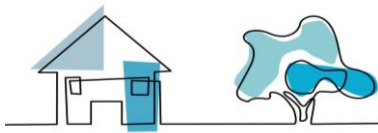
それから僕と7歳の娘の2人生活が始まった。

妻が寝込むと当然、食事の準備や家事は僕の  
役割になった。習い事の送り向かいなど普段  
妻任せにしていた細かい用事の量は想像以上。

たった数日だけの経験でしたが、結構大変！  
世の中の奥さんの大変さが身に染み、体調を  
崩し辛そうな妻を見ながら猛省しました。

今までの僕は、少し手伝いすると「やった」  
と自己満足していたことが恥ずかしく、家事  
の大変さと妻の大変さを知りました。

僕のどこにあったのか？ちょっと生暖かい  
気持ちがムクムク顔を出した出来事でした。



## 今月のお宅

家は、その家族の暮らしを映す。  
既に職業病だと自覚しながら...今日も  
誰かの住宅を見て想うことを綴ってます

今月の僕が記事に取り上げた一軒は...

### 一戸建て木造・築12年50坪の家 高気密高断熱！の家。

冬、温かくて...夏、涼しい家。

最近はこの家普通建築できたり、リフォームできたりします。

しかし、建築業者はそのメカニズムをとっても難しく説明するので、建築に素人のみなさんには中々理解できないので、リフォームして家を温かく、涼しくしようとする人は、まだまだ少ないのが現実。

それでも、冬の室内温度を適正温度に上げると、健康寿命も平均寿命も「**3歳**」延びるというエビデンスも既に出ているので、みなさんにも理解だけはしてほしいと思い、今回は記事にしてみました。

室内の温かさや涼しさといった温度環境は、「高気密高断熱」という工事方法を用います。そもそも「高気密」と「高断熱」って別物で快適な室内環境に「気密」と「断熱」が必要なんです。

それでは、下の [第一章] ~ [第三章] 想像しながら読んでください。

#### [第一章]

冬の寒い日にみなさんはセーターを着ました。体は温まりますよね。

この「セーター」が断熱材です。良質なセーターならより温かいわけです。

#### [第二章]

セーターを着て、自転車に乗って走りました。セーターに隙間風が入り寒いんですよね。

その上にウィンドブレーカーを着てみましょう。風が遮断され温かくなりますよね。

この「ウィンドブレーカー」を着た状態を気密が確保された状態とってください。

#### [第三章]

では、気密が確保された状態で、全速力で20分自転車を走らすと... 汗をかきますね。

これを家に置き換えると...

「セーター」=「断熱材」

「ウィンドブレーカー」=「防水シート」

「汗」=「結露」

になるわけです。

高断熱で高気密の家は、良い断熱材を使い、家全体を防水シートで覆うのですが、それだけだと「結露」を起こし家全体が腐ったり錆びだしたりするので、「高気密高断熱」の住宅は結露しないよう24時間換気が必要になります。

しかし、なんちゃって「高気密高断熱」の住宅が多いのも現実。せっかく「高気密高断熱」の住宅にしたのに快適ではないのかという理由は下記の3つ

- 断熱材の取り付け工事がいい加減
- 防水シートの覆い方がいい加減
- 換気が計画が不十分

例えば、「窓リフォーム補助金」を使って窓を交換しても、家が隙間だらけだと効果はなく、断熱材と防水シートでしっかり覆っても換気システムが無ければ、逆に家が腐り出したり、錆びたり急速に劣化が始まります。

2024年は窓断熱に最大200万円まで補助金が出ます。寒い住宅の窓は一枚ガラスが多く、窓からの冷気や熱気が室温変化させる大きな要因。滞在時間の長いリビングの窓だけ補助金利用するのも方法です。

全ての人が快適な室内温度で暮らしたいと思うものでも、築年数が経った家にどこまでお金を掛けるかは人それぞれ。建物の「構造・面積・階数」を教えていただければ、概算予算は即答できますので、金額を知りたい方は僕（カサマツ）「072-974-5010」までお電話ください。営業は致しません。みなさんが温かい家に興味をもってもらうきっかけになれば嬉しいです。